

各関係機関団体の長
各病害虫防除員

} 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病害虫防除所)

令和元年度病害虫発生予報第12号(3月)について

このことについて、病害虫発生予報第12号を発表したので送付します。

予報第12号

<予想される向こう1か月の天候(令和2年2月29日~令和2年3月28日)>

寒気が南下しにくく、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低10 並10 高80% 高い 見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並 の見込み	少40 並30 多30% ほぼ平年並 の見込み

(福岡管区気象台 令和2年2月27日発表抜粋)

3月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	現況 (発生量)	3月の発生予報 (発生量)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	少 並	やや少 やや多	やや多 やや多
冬春ナス	すすかび病 ミナミキイロアザミウマ	少 少	やや少 並	やや多 並

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

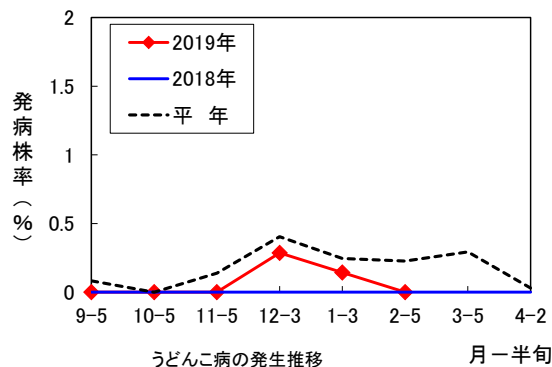
ア 2月5半月調査の結果、発生量は平年より少なかった(ー)。

発病株率 0% (平年 0.2%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上注意すべき事項

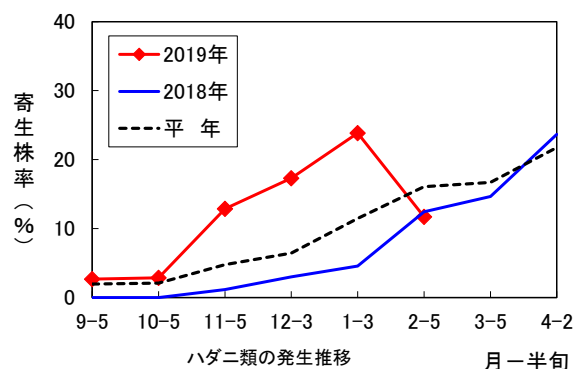
ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。



- イ 罹病果や罹病葉の早期発見に努め、見つけ次第速やかに取り除く。また、収穫後の果梗枝は、放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。
- ウ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。
- エ 古葉かぎ後、葉液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。
- オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- カ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 4の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。

2 ハダニ類

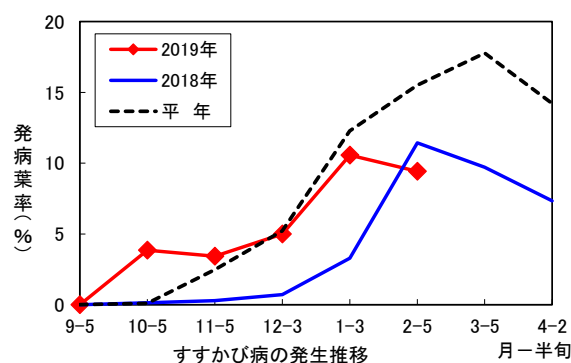
- (1) 予報の内容
 - 発生量：平年・前年よりやや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 2月5半月調査の結果、発生量は平年並であった（±）。
寄生株率 11.7%（平年 16.1%、前年 12.4%）
 - イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（+）。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 하우스内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
 - イ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
 - ウ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、気門封鎖剤も含めて異なる系統の薬剤をローテーション散布する。また、ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性に乏しいため、葉裏に葉液が十分付着するよう防除を行う。
 - エ 天敵を利用している場合は、薬剤の選定に留意する。
 - オ 気温の上昇に伴い、次年度用親株でも発生量の増加が懸念されるため、薬剤防除や下葉かぎ等の防除対策を実施する。



【野菜：冬春ナス】

1 すずかび病

- (1) 予報の内容
 - 発生量：平年よりやや少、前年よりやや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 2月5半月調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。
発病葉率 9.4%（平年 15.5%、前年 11.4%）
 - イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（+）。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理に努める。
 - イ 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
 - ウ 夜温が高くなると、加温機の稼働時間が短くなり、夜間の群落内の湿度が上昇し発病を助長する。
加温機の稼働時間が短くなると予想される場合は、送風機能を活用し、群落内の湿度低下を図る。
 - エ 感染源となる発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
 - オ 病勢が進展すると防除が困難であるため、発生初期の防除を徹底する。
 - カ 散布ムラができないように、丁寧に薬剤を散布する。
 - キ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
 - ク すずかび病の防除薬剤の中には天敵に悪影響を及ぼすものがあるため、天敵を利用している場合は、薬剤の選定に留意する。



2 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

寄生葉率 1.6% (平年 6.0%、前年 2.4%)

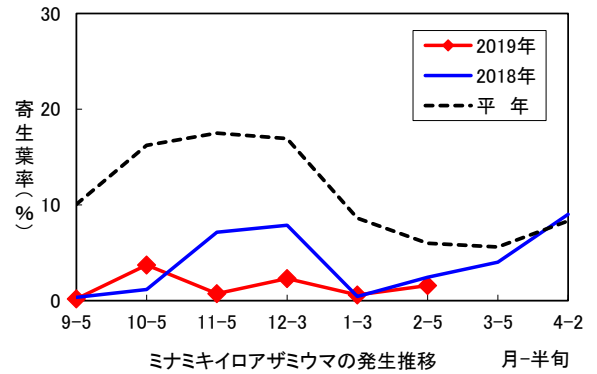
イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草はハウス内に放置せず、ほ場外に持ち出して処分する。

イ 葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。なお、薬剤抵抗性の発達を回避するために、同一系統薬剤の連用は避ける。

ウ 天敵を利用している場合は、薬剤の選定に留意する。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	現況 (発生量)	3月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	多	多	<ul style="list-style-type: none"> 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。 発病果や、収穫終了後の果梗枝は除去する。 古葉かぎを適宜行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。 株元まで薬剤がかかるよう、丁寧に薬剤を散布する。 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
冬春ナス 灰色かび病	やや多	多	多	<ul style="list-style-type: none"> 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。 発病果、発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。 散布ムラができないよう、丁寧に薬剤を散布する。 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。 品種によっては、本病害が出やすい傾向にあるので留意する。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等に関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



最新の病害虫発生状況